

日本産科婦人科学会 会員各位

用語に関しましてご意見募集

日本産科婦人科学会 教育委員会では、現在、2018 年春発刊の予定で「産科婦人科用語集・用語解説集」の改訂作業を進めております。今回、添付の資料を9月9日の教育委員会ならびに翌10日の理事会に上程いたしましたので、会員の皆様からのご意見も賜りたくお伺いする次第です。

「産科婦人科用語集・用語解説集」に収載する新規・変更などの用語については、5月22日の長崎、6月19日の東京でコンセンサスミーティングを開催させて頂きました。多くの会員の方々に有意義なご意見やコメントを頂き、有り難うございました。ご意見を可能な範囲で盛り込むべく作業を進めて参りました。しかし、一部のご意見やコメントが反映されていないものがございます。本委員会は、時代に即し臨床の現場で活用される用語を編集することが目的で、用語の定義の変更やガイドラインで示されていない行動指針の提示は本務ではございません。これらに相当する用語につきましては、4つの専門委員会で議論されることになっていますので、会員として必要とお考えの時には、各専門委員会にまず要望して頂きますようお願い申し上げます。

今回の改訂に関してお気づきの点やご意見などございましたら、10月31日までに学会事務局宛にFAX 03-5524-6911(別紙をご利用ください)またはメール masuno@jsog.or.jp にてお知らせください。

ご意見につきましては、個別の回答はいたしかねますのでご了承ください。

最終案は明年、臨時総会・定時総会に諮る予定にしております。

どうぞよろしくお願いいたします。

※添付文書

用語集・用語解説集 改訂第4版について

新規語解説あり一覧

新規語解説なし一覧

削除語一覧

主な新規用語・大幅変更用語に関する解説

問題提起：妊娠回数のかぞえかた

提言：癒着胎盤、およびその細分類の日本語用語について

公益社団法人日本産科婦人科学会

教育委員会委員長 八重樫伸生

用語集・用語解説集委員会委員長 片渕 秀隆

平成28年10月1日

締切：10月31日

日本産科婦人科学会 教育委員会 FAX03-5524-6911 またはメール

masuno@jsog.or.jp まで 10 月 31 日までにお送りください。

用語集・用語解説集 2018 版案についてご意見

ご芳名

複数の用語へのご意見の場合はコピーされるなど同様の体裁でお送りください

分野	
用語	
ご意見：	

用語集・用語解説集 改訂第4版(2018年出版)について

教育委員会

委員長 八重樫伸生

主務幹事 西郡秀和, 担当幹事 矢内原 臨

用語集・用語解説集委員会

委員長 片渕秀隆

副委員長 久具宏司, 永瀬 智

委員(総務担当) 関根正幸

周産期学 取り纏め 大口昭英

婦人科腫瘍学 取り纏め 金内優典

生殖内分泌学 取り纏め 大場 隆

女性医学 取り纏め 加藤育民

「産科婦人科用語集・用語解説集」初版 2003 年, 第2版 2008 年, 第3版 2013 年

◆ 用語集・用語解説編集委員会

第一回 平成 26 年 2 月 21 日(金)17:30~20:00

第二回 平成 26 年 5 月 30 日(金)17:30~20:00

第三回 平成 26 年 9 月 19 日(金)17:00~19:00

第四回 平成 26 年 12 月 12 日(金)17:30~19:30

第五回 平成 27 年 2 月 27 日(金)16:30~18:30

第六回 平成 27 年 5 月 29 日(金)17:00~19:00

◆ 用語集・用語解説編集委員会 コアメンバー会議

第一回 平成 27 年 1 月 23 日(金)18:00~19:30

第二回 平成 27 年 5 月 28 日(木)15:00~18:00

第三回 平成 27 年 7 月 7 日(火)14:00~19:00

第四回 平成 27 年 8 月 25 日(火)12:00~17:00

第五回 平成 27 年 10 月 15 日(火)14:00~17:00

第六回 平成 28 年 1 月 7 日(木)12:30~17:00

第七回 平成 28 年 3 月 31 日(木)12:30~17:00

第八回 平成 28 年 6 月 24 日(金)12:30~17:00

第九回 平成 28 年 8 月 17 日(水)11:00~16:00

◆ コンセンサスメETING

第一回 平成 28 年 5 月 22 日 第 73 回九州連合産科婦人科学会

第二回 平成 28 年 6 月 19 日 第 131 回関東連合産科婦人科学会

<改訂の基本方針>

- 用語集・用語解説集は用語を正しく理解するツールとして学会が規範を示すもので, 辞書・辞典とはスタンスが異なるものであり, 図表などの掲載は必要最小限とする。
- 用語の掲載は 50 音順を基本とするが, 冠用語と和訳できない用語に関しては ABC 順とする。付録として, 英和(掲載用語の英訳を含める)と略語は別項目で ABC 順とする。

➤ 序文にて新規改訂版が基にしたガイドライン・規約がどの時点のものかを明記する。

＜掲載項目の変更＞

- 「用語」「冠名用語」「用語解説」「ART 用語集」を「用語および用語解説」として一つにまとめ、掲載順は 50 音順を基本とするが、冠名用語と和訳できない用語に関しては ABC 順とする。
- 「英和(掲載用語の英訳を含める)」と「略語」は別項目(付録)で ABC 順とする。
- 「定義」は基本的になくす。
- 「削除語一覧」を新たに加える(付録)。

第 3 版

- ◆ 凡例
- ◆ 用語
- ◆ 冠名用語
- ◆ 用語解説
- ◆ 略語
- ◆ 定義
- ◆ ART 用語集
- ◆ 英和対訳



改訂第 4 版

- 凡例
- 用語および用語解説
 - ・ 50 音順
 - ・ ABC 順(冠名用語と和訳できない用語)
- (付録) 英和(ABC 順)
- (付録) 略語(ABC 順)
- (付録) 削除語一覧

＜新規語の採用(リスト参照)＞

- 新規語(用語解説あり)
 - ・ 195 語
- 新規語(用語解説なし)
 - ・ 171 語

＜削除語の選定(リスト参照)＞

- 用語の削除は基本的に行わない。現在では使用されていなくても昔の論文には記載されており、辞書・辞典的な観点から改訂版でも検索可能にするため。
 - ＜例＞妊娠中毒症(旧)、子宮外妊娠(旧)
- 以下の用語は削除を検討する。
 - ・ 差別用語など明らかに不適切と考えられるもの。
 - ・ 総論用語であり産婦人科学との関連が非常に少ないもの。
- 削除語は一覧表として巻末に掲載する。
- 152 語を選定。

＜今後の予定＞

1. 2016 年 10 月：パブリックコメント掲載
2. 2016 年 10 月 31 日：パブリックコメント締切
3. 2016 年 11 月 27 日：第十回用語集・用語解説編集委員会コアメンバー会議
4. 2017 年 2 月 14 日：第 5 回常務理事会に上程
5. 2017 年 3 月 4 日：第 4 回理事会に上程
6. 2017 年春の臨時総会にて承認
7. 2018 年春 発刊

新規語解説あり

分野	用語リスト
周産期	極早産
周産期	超早産
周産期	中期早産
周産期	後期早産
周産期	早期正期産
周産期	満期正期産
周産期	後期正期産
周産期	異所性妊娠存続症
周産期	一絨毛膜〔性〕双胎
周産期	twin anemia-polycythemia sequence
周産期	一児發育不全
周産期	結合双胎
周産期	分娩後異常出血
周産期	産科危機の出血
周産期	子宮底圧迫法(クリステル胎児圧出法)
周産期	子宮頻収縮
周産期	絨毛膜羊膜炎【改訂】
周産期	Potter シークエンス
周産期	頸管短縮
周産期	産科異常出血
周産期	二絨毛膜二羊膜〔性〕双胎
周産期	晚期循環不全
周産期	胎勢
周産期	過強陣痛【改訂】
周産期	〔子宮〕頸管縫縮〔術〕【改訂】
腫瘍	growing teratoma syndrome
腫瘍	大細胞神経内分泌癌
腫瘍	quiescent gestational trophoblastic disease
腫瘍	進行期決定開腹手術
腫瘍	ultrastaging
腫瘍	レボノルゲストレル放出子宮内システム
腫瘍	ベストサポーティブケア
腫瘍	Cloquet リンパ節
腫瘍	胃型〔頸部〕腺癌
腫瘍	異型血管
腫瘍	異常腺開口
腫瘍	遺伝性腫瘍
腫瘍	家族性腫瘍
腫瘍	過大着床部
腫瘍	間葉性異形成胎盤
腫瘍	血管周囲性類上皮細胞腫
腫瘍	高位傍大動脈リンパ節
腫瘍	低位傍大動脈リンパ節
腫瘍	子宮魚鱗癬
腫瘍	子宮腺肉腫
腫瘍	子宮内膜厚
腫瘍	子宮内膜上皮内癌
腫瘍	漿液性卵管上皮内癌

分野	用語リスト
腫瘍	センチネルリンパ節
腫瘍	胎盤中隔嚢腫
腫瘍	腔上皮内腫瘍
腫瘍	腔切除術
腫瘍	着床部結節/斑
腫瘍	中間型トロホプラスト腫瘍
腫瘍	低悪性度子宮内膜間質肉腫
腫瘍	高異型度漿液性癌
腫瘍	低異型度漿液性癌
腫瘍	同時化学放射線療法
腫瘍	分子標的〔治療〕薬
腫瘍	未分化子宮内膜肉腫
腫瘍	メタ解析＝メタアナリシス
腫瘍	リスク低減卵巣卵管摘出術
腫瘍	リンチ症候群
腫瘍	類上皮性トロホプラスト腫瘍
腫瘍	遺伝性乳がん卵巣がん
腫瘍	Peutz-Jeghers 症候群
腫瘍	分化型外陰上皮内腫瘍
腫瘍	分葉状頸管腺過形成
腫瘍	未分化神経外胚葉性腫瘍
腫瘍	Response Evaluation Criteria in Solid Tumors
腫瘍	外陰切除術
腫瘍	complete surgery
腫瘍	optimal surgery
腫瘍	一次的腫瘍減量手術
腫瘍	インターバル腫瘍減量手術
腫瘍	二次的腫瘍減量手術
腫瘍	suboptimal surgery
腫瘍	上皮性インプラント
腫瘍	浸潤性インプラント
腫瘍	線維形成性インプラント
腫瘍	非浸潤性インプラント
腫瘍	benign chorionic invasion
腫瘍	syncytial endometritis
腫瘍	硬化性腹膜炎を伴う黄体化莢膜細胞腫
腫瘍	単胚葉性奇形腫および皮様嚢腫に伴う体細胞型腫瘍
腫瘍	卵巣上皮性腫瘍
腫瘍	卵巣性索間質性腫瘍
腫瘍	セルトリ細胞腫
腫瘍	漿液粘液性腫瘍
腫瘍	漿液粘液性嚢胞腺腫
腫瘍	漿液粘液性境界悪性腫瘍
腫瘍	漿液粘液性癌
腫瘍	〔卵巣〕明細胞境界悪性腫瘍
腫瘍	〔卵巣〕類内膜境界悪性腫瘍
腫瘍	モザイク
生殖内分泌	黄体補充(療法)
生殖内分泌	稀少部位子宮内膜症
生殖内分泌	生化学的妊娠

分野	用語リスト
生殖内分泌	性分化疾患(性分化異常)←インターセックス, 偽半陰陽, 性腺形成異常症, 半陰陽
生殖内分泌	ソノヒステログラフィー
生殖内分泌	ロッテルダム診断基準
生殖内分泌	卵巣開孔術
生殖内分泌	精子減少症←精子過少症
生殖内分泌	減数分裂←成熟分裂
生殖内分泌	アンドロゲン不応症候群←精巢性女性化症候群
生殖内分泌	X トリソミー
生殖内分泌	卵巣チョコレート嚢胞
生殖内分泌	FSH(hMG)-hCG 療法
生殖内分泌	Coasting 法
生殖内分泌	調節卵巣刺激
生殖内分泌	補助孵化
生殖内分泌	胚盤胞, 胞胚
生殖内分泌	臨床的妊娠
生殖内分泌	凍結保存
生殖内分泌	胚, 胎芽
生殖内分泌	胚提供
生殖内分泌	減胎処置
生殖内分泌	凍結融解胚 ART 周期(FET)
生殖内分泌	凍結融解卵子 ART 周期
生殖内分泌	代理懐胎者
生殖内分泌	ART 後着床率
生殖内分泌	卵細胞質内精子注入法(ICSI)
生殖内分泌	ART 後出生率
生殖内分泌	顕微鏡下精巢上体精子吸引術(MESA)
生殖内分泌	顕微操作
生殖内分泌	顕微鏡下精巢内精子抽出術(MicroTESE)
生殖内分泌	IVF のための卵巣緩刺激
生殖内分泌	自然周期 IVF
生殖内分泌	卵子提供周期
生殖内分泌	経皮的精巢上体精子吸引術(PESA)
生殖内分泌	着床前遺伝子スクリーニング(PGS)
生殖内分泌	精巢内精子抽出法(TESE)
生殖内分泌	消滅胚
生殖内分泌	接合子
生殖内分泌	接合子卵管内移植(ZIFT)
生殖内分泌	牽糸性
生殖内分泌	子宮鏡検査←ヒステロスコピー
生殖内分泌	先天性副腎皮質過形成←副腎性器症候群
生殖内分泌	妊孕〔性〕
生殖内分泌	月経モリミナ
生殖内分泌	Y 染色体性決定領域
生殖内分泌	46,XY DSD
生殖内分泌	Swyer 症候群
生殖内分泌	早発卵巣不全
生殖内分泌	早発閉経
生殖内分泌	深部子宮内膜症
生殖内分泌	医療補助生殖
女性医学	性同一性障害

分野	用語リスト
女性医学	Schauta-Wertheim 法
女性医学	尿失禁
女性医学	ターナー症候群(ターナー女性)
女性医学	頻尿
女性医学	夜間頻尿
女性医学	骨盤底筋訓練(Kegel 体操)
女性医学	女性下部尿路症状
女性医学	過活動膀胱
女性医学	尿意切迫感
女性医学	尿道過可動
女性医学	内因性括約筋不全
女性医学	神経因性膀胱
女性医学	尿流動態検査
女性医学	pelvic organ prolapsed quantification (POP-Q) 法
女性医学	経膣メッシュ手術
女性医学	運動性無月経
女性医学	女性アスリートの3主徴
女性医学	性別適合手術
女性医学	慢性骨盤(内)疼痛
女性医学	サルコペニア
女性医学	フレイル
女性医学	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
女性医学	ジェンダー
女性医学	トランスジェンダー
女性医学	セクシュアリティ
女性医学	LGBT
女性医学	セクシュアル・マイノリティ
女性医学	月経前不快気分障害
女性医学	補完代替医療
女性医学	脂質異常症
女性医学	STRAW+10
女性医学	PALM-COEIN system
女性医学	分娩後尿閉
女性医学	Baden-Walker スコア
女性医学	エクオール
女性医学	ロコモティブ シンドローム
女性医学	性別違和
女性医学	低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬
女性医学	Gartner 嚢胞
女性医学	Herlyn-Werner 症候群
女性医学	Wunderlich 症候群
女性医学	OHVIRA
女性医学	月経痛
女性医学	先天性子宮形態異常
女性医学	造膣術
女性医学	骨盤臓器脱

新規語解説なし

分野	用語リスト
周産期	Amsel スコア
周産期	B-Lynch 子宮圧迫縫合
周産期	BPP : biophysical profile
周産期	CDH : congenital diaphragmatic hernia 先天性横隔膜ヘルニア
周産期	cervical insufficiency, incompetent cervix, cervical asthenia【子宮頸管無力症：英語名の追加】
周産期	CL : cervical length 子宮頸管長
周産期	CLD : chronic lung disease 慢性肺疾患
周産期	crowning【発露 expression：英語名の追加】
周産期	D&E : dilatation and evacuation
周産期	DOHaD : developmental origin of health and disease
周産期	DORV : double outlet of right ventricle 両大血管右室起始
周産期	DV : ductus venosus 静脈管
周産期	DVT : deep vein thrombosis 深部静脈血栓症
周産期	ED : early deceleration 早発一過性徐脈
周産期	Eisenmenger 症候群
周産期	ELBW : extremely low birth weight 超低出生体重
周産期	FIRS : fetal inflammatory response syndrome
周産期	FLP : fetoscopic laser photocoagulation of communicating vessels
周産期	GCT : glucose challenge test グルコースチャレンジテスト
周産期	GCU : growing care unit
周産期	HELLP : hemolysis, elevated liver enzyme, low platelet syndrome
周産期	HLHS : hypoplastic left heart syndrome 左心低形成症候群
周産期	hypercoiling【臍帯過捻転 excess torsion of the cord：英語名の追加】
周産期	hypotonic uterine dysfunction【微弱陣痛 weak pains：英語名の追加】
周産期	IGFBP : IGF binding protein
周産期	IVH : intraventricular hemorrhage 脳室内出血
周産期	LBW : low birth weight 低出生体重
周産期	LD : late deceleration 遅発一過性徐脈
周産期	Marfan 症候群
周産期	MCDK : multicystic dysplastic kidney 多嚢胞性異形成腎
周産期	MFICU : maternal fetal intensive care unit 母体・胎児集中治療管理室
周産期	NEC : necrotizing enterocolitis 壊死性腸炎
周産期	NO 吸入療法
周産期	Nugent スコア
周産期	臍帯ヘルニア omphalocele【英語名の改訂】
周産期	PD : prolonged deceleration 遷延一過性徐脈
周産期	pPROM : preterm PROM 早産期前期破水
周産期	PRES : posterior reversible encephalopathy syndrome
周産期	pudendal nerve block【陰部神経ブロック：英語名の追加】
周産期	RS ウイルス感染症 respiratory syncytial virus[RSV]
周産期	SCH : subchorionic hematoma 絨毛膜下血腫
周産期	sentinel bleed【警告出血 alerm bleeding：英語名の追加】
周産期	SGA 性低身長 small-for-gestational-age short stature
周産期	SI : shock index ショックインデックス
周産期	TAPS : twin anemia-polycythemia sequence 和訳なし
周産期	threatened preterm labor(delivery)【切迫早産 threatened premature labor(delivery)：英語名の追加】
周産期	TOF : Tetralogy of Fallot ファロー四徴症

分野	用語リスト
周産期	TPL : threatened premature delivery (labor) 切迫早産
周産期	TTN : transient tachypnea of the newborn 新生児一過性多呼吸
周産期	VEGF : vascular endothelial growth factor
周産期	Wilson Mikity 症候群
周産期	一児発育不全 selective IUGR
周産期	インターベンショナルラジオロジー interventional radiology (IVR)
周産期	画縁胎盤 (E) marginal placenta, circummarginate placenta, (L) placenta marginata
周産期	ダウン症候群 Down syndrome
周産期	麦角アルカロイド ergot alkaloid
周産期	分娩前異常出血 antepartum hemorrhage
周産期	画縁胎盤 (E) marginal placenta, circummarginate placenta, (L) placenta marginata【英語の改訂】
周産期	後頸部透亮像 nuchal translucency [NT]
周産期	高インスリン性低血糖症 hyperinsulinemic hypoglycemia
周産期	細菌性膣炎 bacterial vaginitis
周産期	産科医療補償制度 Japan Obstetric Compensation System for Cerebral Pulsy
周産期	産科麻酔 obstetric anesthesia
周産期	子宮圧迫縫合 uterine compression sutures
周産期	子宮型羊水塞栓症 uterine type amniotic fluid embolism
周産期	子宮左方移動 left uterine displacement (LUD)
周産期	子宮内バルーンタンポナーデ uterine balloon tamponade
周産期	新生児 TSS 様発疹症 neonatal toxic shock syndrome-like exanthematous disease (NTED)
周産期	推定胎児体重 estimated fetal weight
周産期	水無脳症 hydranencephaly
周産期	双胎後続児 second twin
周産期	双胎先進児 first twin
周産期	胎児母体間輸血症候群 fetomaternal transfusion syndrome
周産期	帝王切開後試験分娩 trial of labor after cesarean delivery (TOLAC)
周産期	乳児突然死症候群 sudden infant death syndrome (SIDS)
周産期	乳幼児突発性危急事態 apparent life threatening event (ALTE)
周産期	脳低温療法 brain hypothermia
周産期	傍[子宮]頸管ブロック paracervical block
周産期	臨床の羊水塞栓症 clinical amniotic fluid embolism
周産期	後期分娩後異常出血 late puerperal hemorrhage, late (secondary) postpartum hemorrhage
腫瘍	骨盤内臓神経
腫瘍	上下腹神経叢
腫瘍	大網
腫瘍	液状化検体細胞診
腫瘍	Piver (-Rutledge-Smith) 分類
腫瘍	腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術
腫瘍	全腹腔鏡下子宮全摘術
腫瘍	ロボット支援[下]手術
腫瘍	レーザー蒸散術
腫瘍	付属器癒着剝離術
腫瘍	妊娠性絨毛性疾患 : GTD
腫瘍	妊娠性絨毛性腫瘍 : GTN
腫瘍	ハザード比
腫瘍	オッズ比
腫瘍	信頼区間
腫瘍	パフォーマンスステータス
腫瘍	血中濃度 (-時間) 曲線下面積 : AUC

分野	用語リスト
腫瘍	無増悪生存期間
腫瘍	全生存期間
腫瘍	過敏性反応
腫瘍	無治療期間
腫瘍	無再発期間
腫瘍	platinum free interval
腫瘍	固形がんの治療効果判定：RECIST
腫瘍	奏効率
腫瘍	病勢コントロール率
腫瘍	生存期間中央値
腫瘍	有害事象
腫瘍	がん幹細胞
腫瘍	上皮間葉形質転換
腫瘍	間葉上皮形質転換
腫瘍	一塩基多型
腫瘍	コピー数多様性
腫瘍	バイオマーカー
腫瘍	低侵襲手術
腫瘍	根治的放射線治療
腫瘍	アロマターゼ阻害剤
腫瘍	定位手術的照射
腫瘍	定位放射線治療
腫瘍	体幹部定位放射線治療
腫瘍	光線力学療法：PDT
腫瘍	腹水濾過濃縮再静注法
腫瘍	全腹部照射
腫瘍	術前照射
腫瘍	術後照射
腫瘍	トロカー挿入部転移：port site metastasis
腫瘍	水腫様流産
腫瘍	胎児共存奇胎
腫瘍	LMS：Leiomyosarcoma
腫瘍	Negative for intraepithelial lesion or malignancy：NILM
腫瘍	(原発性)腹膜癌
腫瘍	発熱性好中球減少症
腫瘍	リンパ管腫
腫瘍	絨毛性(の)栄養膜細胞：villous trophoblast
腫瘍	絨毛外性(の)栄養膜細胞：extravillous trophoblast
腫瘍	砂粒体
腫瘍	ホブネイル，軍靴鉾状
腫瘍	ラインケ結晶
腫瘍	顆粒球コロニー刺激因子
腫瘍	血管内皮増殖因子
腫瘍	ポリ(ADP-リボース)合成酵素
腫瘍	BRCA1/2
腫瘍	atypical vessels[aV]
腫瘍	核磁気共鳴画像法
腫瘍	腹膜貯留嚢胞(旧)被包水症：peritoneal inclusion cyst=peritoneal pseudocyst
腫瘍	黄体化莖膜細胞腫(旧)
腫瘍	増殖性ブレンナー腫瘍

分野	用語リスト
腫瘍	〔ovarian〕primitive endodermal tumor
腫瘍	Demons-Meigs 症候群
腫瘍	Meigs-Cass 症候群
腫瘍	偽〔性〕Meigs 症候群
生殖	ガラス化法
生殖	原因不明不妊
生殖	初期胚
生殖	子宮内人工授精
生殖	非閉塞性無精子症
生殖	閉塞性無精子症
生殖	IVM : In Vitro Maturation
生殖	rFSH : Recombinant follicle stimulating hormone
生殖	SET : single embryo transfer
生殖	FT : Falloscopic tuboplasty
生殖	提供精子人工授精 (DI)
女性医学	Tension-free vaginal mesh (TVM) 法 骨盤臓器脱
女性医学	Manchester 手術 骨盤臓器脱
女性医学	膣断端脱 vault prolapse 骨盤臓器脱
女性医学	性別違和 gender dysphoria 性同一性障害
女性医学	MTF : male to female 性同一性障害
女性医学	FTM : female to male 性同一性障害
女性医学	弓状子宮 先天性子宮形態異常
女性医学	月経随伴性気胸
女性医学	外陰痛 vulvodynia

削除語

分野	用語リスト	削除理由
周産期	乳母乳 milk of wet-nurse	現在使用されていない
周産期	開口期陣痛	現在使用されていない
周産期	渴熱	飢餓熱に統合
周産期	吸引反射	吸啜反射に統合
周産期	血様奇胎	現在使用されていない
周産期	授乳性子宮萎縮 lactation atrophy of the uterus	現在使用されていない
周産期	水頭体	水頭症に統合
周産期	弛緩出血 ちかんしゅっけつ	弛緩出血 しかんしゅっけつ と重複
周産期	内頭血腫	現在使用されていない
周産期	麦角 ergot of rye	単独では使用しない, 総論用語
周産期	無痙攣〔性〕子癇 eclampsia without convulsion, nonconvulsive eclampsia	現在使用されていない
周産期	羊水塞栓	羊水塞栓症に統合
周産期	卵管腹腔妊娠	現在使用されていない
周産期	artificial rupture of membranes 破膜	人工破膜に統合
周産期	difficult labor	英語名を dystocia のみとする
周産期	interruption of pregnancy 妊娠中絶	英語名を termination of pregnancy のみとする
周産期	Mongolian macula 児斑	Mongolian spot に統合
周産期	salpingocyesis	tubal pregnancy に統合
周産期	坐骨結合体	結合双胎(新規語)に差し替え
周産期	肺換気異常	総論用語
周産期	肺硝子〔様〕膜症	呼吸窮迫(困難)症候群に統合
周産期	肺ヒアリン膜症	呼吸窮迫(困難)症候群に統合
周産期	潜在胎児機能不全	現在使用されていない
周産期	超巨大児	現在使用されていない
周産期	prolonged rupture of the membrane	現在使用されていない
腫瘍	麻醉	総論用語
腫瘍	麻醉薬	総論用語
腫瘍	アポトーシス	総論用語
腫瘍	生検	総論用語
腫瘍	乳癌	総論用語
腫瘍	悪液質	総論用語
腫瘍	癌	総論用語
腫瘍	子宮癌	不適切用語
腫瘍	癌腫	総論用語
腫瘍	単純癌	現在使用されていない
腫瘍	化学療法	総論用語
腫瘍	子宮頸〔部〕癌臨床進行期分類	進行期の個別解説は削除(総論解説は残存)
腫瘍	子宮重複癌	“重複癌”で解説している. 重複しているので削除
腫瘍	遺伝子	総論用語
腫瘍	栄養カテーテル	総論用語
腫瘍	浸潤麻醉	総論用語
腫瘍	吸入麻醉	総論用語
腫瘍	間欠〔吸入〕麻醉	総論用語
腫瘍	局所麻醉	総論用語

分野	用語リスト	削除理由
腫瘍	リンパ節	総論用語
腫瘍	癌遺伝子	総論用語
腫瘍	後腔式開腹〔術〕	現在使用されていない
腫瘍	子宮体癌進行期分類	進行期の個別解説は削除(総論解説は残存)
腫瘍	[FIGO] 卵巣癌進行期別分類	進行期の個別解説は削除(総論解説は残存)
腫瘍	[UICC] 卵巣癌進行期別分類	進行期の個別解説は削除(総論解説は残存)
腫瘍	卵巣癌進行期別分類	進行期の個別解説は削除(総論解説は残存)
腫瘍	stitch 縫合〔術〕	総論用語
腫瘍	放射性コバルト	総論用語
腫瘍	ラジウム	総論用語
腫瘍	ラジウム針	総論用語
腫瘍	ラジウム杆	総論用語
腫瘍	回転照射〔法〕	総論用語
腫瘍	癌抑制遺伝子	総論用語
腫瘍	ギネコグラフィ	現在使用されていない
腫瘍	栄養所要量	総論用語
腫瘍	栄養法	総論用語
腫瘍	強制栄養法	総論用語
腫瘍	腸雑音	総論用語
腫瘍	蛍光抗体法	総論用語
腫瘍	X 線	総論用語
腫瘍	筋腫芽	現在使用されていない
腫瘍	腫瘤	総論用語
腫瘍	中心静脈栄養	総論用語
腫瘍	転移	総論用語
腫瘍	ハイブリダイゼーション	総論用語
腫瘍	縫合	総論用語
腫瘍	縫合〔術〕	総論用語
腫瘍	無気肺	総論用語
腫瘍	レントゲン線	総論用語
腫瘍	半減期	総論用語
腫瘍	Ca 癌	総論用語
腫瘍	CPL cirrhotic, progressive and lymphatic forms	略語として収載されていたが意味不明であり削除
腫瘍	DNA デオキシリボ核酸	総論用語
腫瘍	EGF 上皮成長〔増殖〕因子	総論用語
腫瘍	IC 浸潤癌	総論用語
腫瘍	ISH in situ hybridization	総論用語
腫瘍	LASER レーザー	総論用語
腫瘍	MIC microinvasive carcinoma	総論用語
腫瘍	mRNA	総論用語
腫瘍	PCR	総論用語
腫瘍	RNA	総論用語
腫瘍	RV(残気量)	総論用語
腫瘍	TLC(全肺気量)	総論用語
腫瘍	XP(X 線写真)	総論用語
生殖	亜中隔子宮	不全中隔子宮に統合

分野	用語リスト	削除理由
生殖	亜中隔腔	不全中隔腔に統合
生殖	hMG-hCG 療法	FSH(hMG)-hCG療法に差し替え
生殖	真黄体	妊娠黄体に統合
生殖	妊娠細胞	現在使用されていない
生殖	粘液栓	〔子宮〕頸管粘液栓に統合
生殖	配偶子病	現在使用されていない
生殖	胚点	現在使用されていない
生殖	非対称子宮	現在使用されていない
生殖	副卵管口	卵管副口に統合
生殖	放出因子	総論用語
生殖	傍卵巢	卵巢傍体に統合
生殖	補充性月経	現在使用されていない
生殖	補充療法	総論用語
生殖	抑制因子	総論用語
生殖	卵管帯下	現在使用されていない
生殖	卵管腹腔口	現在使用されていない
生殖	卵管腹腔妊娠	現在使用されていない
生殖	乱切〔法〕	総論用語
生殖	卵巢下垂	現在使用されていない
生殖	〔卵巢〕脂質細胞腫瘍	現在使用されていない
生殖	卵胞斑	現在使用されていない
生殖	abnormal sexual sensation 性感異常	英訳が不適切
生殖	environmental amenorrhea 環境〔性〕無月経	英訳が不適切
生殖	first menstruation 初経	英訳が不適切
生殖	flow of the milk 乳汁漏出症	英訳が不適切
生殖	implantation of the Fallopian tube 卵管移植〔術〕	英訳が不適切
生殖	interruption of tubal pregnancy 卵管妊娠中絶	英訳が不適切
生殖	propagation 生殖	日本語見出しに統合
生殖	regeneration stage 子宮内膜再生期	英訳が不適切
生殖	regenerative phase 子宮内膜再生期	英訳が不適切
生殖	releasing hormone 放出ホルモン	総論用語
生殖	reproductive capability 生殖能〔力〕	英訳が不適切
生殖	secondary abdominal pregnancy 続発腹腔妊娠	英訳が不適切
生殖	sex center 性中枢	日本語見出しに統合
生殖	sex determination 性決定	日本語見出しに統合
生殖	sex (sexual) cycle 性周期	日本語見出しに統合
生殖	sexual center 性中枢	日本語見出しに統合
生殖	spongy layer of the endometrium 子宮内膜海綿層	英訳が不適切
生殖	superfecundation 過受精	英訳が不適切
生殖	temperature drop 体温陥落	英訳が不適切
生殖	wedge-shaped excision 楔状切除〔術〕	wedge resection に統合
生殖	Waldeyer 卵子巢〔団〕	現在使用されていない
生殖	FSH-RH 卵胞刺激ホルモン放出ホルモン	現在使用されていない
生殖	STH 成長ホルモン	総論用語, 現在使用されていない
生殖	T3 トリヨードサイロニン	総論用語
生殖	T4 テトラヨードサイロニン	総論用語
女性医学	低フォスファターゼ血症	総論用語
女性医学	エストロロール estetrol	現在使用されていない
女性医学	月経後期 postmenstrual phase	現在使用されていない
女性医学	月経前期 menstruum	現在使用されていない

分野	用語リスト	削除理由
女性医学	月経中間期 Intermenstruum	現在使用されていない
女性医学	月経閉止〔期〕閉経〔期〕	現在使用されていない
女性医学	月経脱落膜 decidua menstrualis	現在使用されていない
女性医学	早発更年期	現在使用されていない
女性医学	遅発更年期	現在使用されていない
女性医学	晩発閉経	現在使用されていない
女性医学	晩発月経	遅発月経に統合
女性医学	晩発閉経	遅発閉経に統合
女性医学	精神身体症心身症	心身症に統合
女性医学	selective estrogen receptor modifilia	selective estrogen receptor modulator に統合
女性医学	放出ホルモン releasing hormone	総論用語
女性医学	老年〔性〕子宮萎縮 atrophy of the uterus	差別用語

主な新規用語・大幅変更用語に関する解説

各4分野において抽出した“主な新規用語・大幅変更用語”に関する解説を提示いたします。各用語につきましては、あらかじめ各4分野の専門委員会での承認を得ております。

周産期学分野

【用語解説なし】

頸管峡部裂傷 cervico-isthmus laceration

後頸部透亮像 nuchal translucency ; NT

(旧：ヌーカルトランスルーゼンシー，項部透亮像)

子宮圧迫縫合 uterine compression sutures

子宮型羊水塞栓症 uterine type amniotic fluid embolism

子宮峡部裂傷 isthmus laceration

周死期(死産期)帝王切開術 perimortem cesarean section

早産期前期破水 preterm premature rupture of the membrane ; pPROM

臨床的羊水塞栓症 clinical amniotic fluid embolism

【用語解説あり】

異所性妊娠存続症 persistent ectopic pregnancy

【用語解説】「異所性妊娠に対して卵管温存手術(卵管切開術)や薬物療法，または待機療法を選択した後で，絨毛組織が存続している状態(persistent trophoblast)である。明確な診断基準はないが，異所性妊娠に対する治療後にhCG値の下降速度が遅い場合や再上昇がみられる場合にこの病態を強く疑う。」

頸管短縮 cervical shortening, shortened cervix

【用語解説】「経陰超音波断層法により，通常よりも子宮頸管が短縮している状態と現在定義されている。近年，妊娠24週及び妊娠28週時の無症状の妊婦コホート研究(Iams JD et al. N Engl J Med 1996)で，妊娠24週時に子宮頸管長25mm未満の妊婦は妊娠35週未満の自然早産発生率が18%，また，妊娠28週時に子宮頸管長20mm未満の妊婦は妊娠35週未満の自然早産発生率が17%と高率であることが示され，頸管短縮はその後の早産発生のリスク因子であることがわかってきた。また，有症状の切迫早産妊婦において，子宮頸管長短縮程度が強い程その後7日以内の分娩確率が高いことが知られている。」

極早産 very preterm delivery

【用語解説】「世界的なpreterm birthの増加を受けて，pretermの細分類が行われるようになり，在胎31週6日までをearly preterm，32週0日以降をlate pretermとする分類が比較的良く用いられて来た。しかし，WHOは2014年11月にpretermについて，さらに細かな分類を提唱し，在胎28週0日から31週6日までをvery pretermと定義した。同時に，27週6日以前はextremely preterm，32週0日から33週6日までをmoderate preterm，34週0日から36週6日までをlate pretermと定義している。」

早産，正期産に関する細分類

Extremely preterm delivery	超早産	22週0日～27週6日
Very preterm delivery	極早産	28週0日～31週6日
Moderate preterm delivery	中期早産	32週0日～33週6日
Late preterm delivery	後期早産	34週0日～36週6日

Early term delivery	早期正期産	37 週 0 日～38 週 6 日
Full term delivery	満期正期産	39 週 0 日～40 週 6 日
Late term delivery	後期正期産	41 週 0 日～41 週 6 日

産科異常出血 obstetrical hemorrhage

【用語解説】「産科異常出血 obstetrical hemorrhage は妊娠中から分娩後に発生した異常出血を総称する。妊娠 22 週から分娩開始前までを分娩前異常出血 antepartum hemorrhage と呼び、分娩後異常出血 postpartum hemorrhage (PPH) は胎盤娩出後から産後の異常出血を呼ぶ。PPH は通常胎盤娩出後から児娩出 24 時間までの異常出血である primary PPH を指し、その後から 6 週間までを後期分娩後異常出血 late (secondary) PPH と呼ぶ。」

産科危機的出血 critical obstetrical hemorrhage

【用語解説】「妊産褥婦の生命に関わる産科出血を総称し、迅速な輸血(赤血球濃厚液だけではなく新鮮凍結血漿あるいは血小板濃厚液)と集約的なチーム管理を必要とする危機的状態である。ショックインデックス(心拍数/収縮期血圧)を重視し、同インデックスが 1.0 以上の場合にその発症を考慮する。ショックインデックスが 1.5 以上、産科 DIC スコア 8 点以上、あるいはフィブリノゲン 150 mg/dL 以下となれば、産科危機的出血と診断される。なお、乏尿・末梢循環不全があれば産科危機的出血と判断してよい。」

三半期≪妊娠持続期間の≫=三分期 trimester(下線は変更箇所を示す)

【用語解説】「妊娠 42 週を 3 分割して、14 週ごとに三半期(三分期)と称する。第 1 三半期(第 1 三分期): 妊娠 14 週未満、第 2 三半期(第 2 三分期): 妊娠 14 週～28 週未満、第 3 三半期(第 3 三分期): 妊娠 28 週以降。この分類法は E. C. Hughes の Terminology に記載されている方式。」

子宮底圧迫法 uterine fundal pressure

【用語解説】「経膈分娩時に術者の手で子宮底を圧迫し、児の娩出を促す急速遂娩法の一方法である。この手技の目的は、分娩第 2 期に娩出力が弱いと判断される場合に娩出力を高めることである。子宮底圧迫法は、胎児胎盤循環の悪化、子宮破裂、母体内臓損傷、母体肋骨骨折などの有害事象も報告されている。なお、クリステル胎児圧出法(オリジナル)は、Kristeller が 1867 年に初めて提唱した手技を指し、現代用いられている子宮底圧迫法は提唱された当時の手法とは異なっている。」

子宮頻収縮 tachysystole

【用語解説】「子宮の収縮は 30 分以上の区画の平均回数を計算し、10 分間に 5 回を超える収縮回数を子宮頻収縮(tachysystole)と定義する。子宮収縮異常としては、過強陣痛、子宮頻収縮、微弱陣痛などがあるが、胎児に影響のある子宮収縮異常としては子宮頻収縮が海外でも採用されている。これは子宮内圧を測定することが国内外で激減したため、胎児への影響も子宮頻収縮という用語を用いる方が実地臨床に即している。一方で、過強陣痛は現在も臨床症状名としても用いられており、子宮収縮が異常に強く、その持続が異常に長いものをいう。」

絨毛膜羊膜炎 chorioamnionitis ; CAM

【用語解説】「絨毛膜羊膜炎は、臨床的 clinical あるいは潜在性 subclinical 絨毛膜羊膜炎と組織学的絨毛膜羊膜炎に分けられる。臨床的絨毛膜羊膜炎は妊娠中の子宮内感染 intrauterine infection、羊水感染 amniotic fluid infection と同義語として用いられている。その症状は母体の発熱、頻脈、白血球増多、子宮の圧痛、膣分泌物/羊水の悪臭、および胎児頻脈などである。

診断の目安として、Lencki の定義は以下の通りである。

1. 母体に 38 度以上の発熱が認められ、かつ以下の 4 項目中、1 項目以上認める場合: 母体頻脈 ≥ 100 /分、子宮の圧痛、膣分泌物/羊水の悪臭、母体の白血球数 $\geq 15,000/\mu\text{L}$

2. 母体体温が38度未満であっても、上記の4項目すべてを認める場合：ただし、肺炎、腎盂腎炎、虫垂炎、髄膜炎、インフルエンザなどが1に合致する可能性があることから、母体発熱時にはこれらも鑑別診断することが望ましい。その他、海外ではGibbsの定義も用いられている。」

帝王切開癒痕部妊娠 cesarean scar pregnancy ; CSP

【用語解説】「子宮下節横切開による既往帝王切開等の癒痕部に妊卵が着床し、同部の筋層方向へ絨毛が浸潤した病態である。(1)子宮内腔および頸管が空虚(empty)であること、および(2)胎囊が子宮峡部前方(腹側)に位置し、胎囊―膀胱間における筋層を欠如することがCSPを示唆する超音波断層法像とされる。」

分娩後異常出血 postpartum hemorrhage ; PPH

【用語解説】「胎盤娩出後、産褥6週未満の時期に異常出血がおこった場合を指す。これまで500mL以上が分娩後異常出血と国内外で定義されていた。日本産科婦人科学会周産期委員会の約25万分娩例の分娩時出血の分析では、統計学的上限の90パーセンタイルは単胎・経陰分娩：800mL、単胎・帝王切開：1,500mL、多胎・経陰分娩：1,600mL、多胎・帝王切開：2,300mLであり、分娩時異常出血の診断の参考となる。しかし、計測された出血量は実際の出血より少ないことも問題であり、出血量のみで分娩後異常出血を評価できない。したがって、分娩後異常出血は計測された出血量に加え、バイタルサインの異常(頻脈、低血圧、尿量低下、四肢冷感など)を考慮し、判断しなければならない。」

分娩停止 arrest of labor, arrested labor(下線は変更箇所を示す)

【用語解説】「一度は陣痛が発来して分娩が進行していたが、それまで同様の陣痛が続いているにもかかわらず2時間以上にわたって分娩の進行(子宮口の開大や児頭の下降)が認められない状態。児頭の回旋異常による低在横定位や骨盤狭部CPDなどが原因になることが多い。」

婦人科腫瘍学分野

【用語解説なし】

腹膜貯留嚢胞 peritoneal inclusion cyst, peritoneal pseudocyst

現在「被包水症(独)Hydrops saccatus」で登録されている用語があるが、日常的にほとんど使用されていないため、本用語を新規収載する。ただし「被包水症(旧)→腹膜貯留嚢胞」として紹介することで「被包水症」の記載は続ける。

トロカー挿入部転移 port site metastasis

腹腔鏡下手術の結果起こりうる「ポート部転移」という語が他科でも散見されるが、定義されていない。「ポート」は、「トロッカー」、「トロカール」という表現がされるが、日本産科婦人科内視鏡学会用語集で「トロカー」と定義されている。

卵巣嚢胞摘出術 ovarian cystectomy

現在「卵巣嚢腫摘出術(英)ovarian cystectomy」で登録されている用語がある。「cyst」とは嚢胞性病変全体を指すものであり、「嚢腫(英)cystoma, adenoma」より広い概念である。ゆえに、「cystectomy」の日本語は「嚢胞摘出術」に変更する。

【用語解説あり】

一次的腫瘍減量手術 primary debulking (cytoreductive) surgery ; PD (C) S

二次的腫瘍減量手術 secondary debulking (cytoreductive) surgery ; SD (C) S

インターバル腫瘍減量手術 Interval debulking (cytoreductive) surgery ; ID (C) S

卵巣癌治療に関わる一連の用語であるが、英語表記のみで日本語表記がなされていなかったため、本用語を新規収載する。ただし、日本癌治療学会用語集(2013年版)ではPDS, SDSに対して既に上記日本語用語が採用されていた。それぞれ独立した用語解説とはしない。すでに収載されている「腫瘍減量手術」の用語解説の内容を下記のように変更し対応する。

【用語解説】「腫瘍を可能な限り取り除く手術のこと。腫瘍減量手術により、化学療法や放射線療法の治療効果を高めることが期待される。また、症状緩和や予後改善の目的で行われる場合もある。卵巣がんでは手術の完遂度により、「complete surgery：肉眼的に残存腫瘍が認められない場合」、「optimal surgery：残存腫瘍が1cm未満の場合」、「suboptimal surgery：残存腫瘍径が1cm以上の場合」に分けられる。また、初回治療として可及的に最大限の腫瘍減量を行う手術を primary debulking (cytoreductive) surgery : PD (C) S、初回化学療法中に可及的に最大限の腫瘍減量を行う手術を interval debulking (cytoreductive) surgery : ID (C) S、再発腫瘍や初回化学療法終了後に認められる残存腫瘍に対して可及的に最大限の腫瘍減量を行う手術を secondary debulking (cytoreductive) surgery : SD (C) S という。」

妊娠性絨毛性疾患 gestational trophoblastic disease ; GTD

妊娠性絨毛性腫瘍 gestational trophoblastic neoplasia ; GTN

FIGO, WHO で用いられており、「絨毛性疾患取り扱い規約」にも紹介されているが日本語訳がなかったため上記のように収載する。それぞれ独立した用語解説とはしない。すでに収載されている「絨毛性疾患」の用語解説の内容を下記のように変更し対応する。

【用語解説】「胎状奇胎(hydatidiform mole)、侵入胎状奇胎(invasive hydatidiform mole)、絨毛癌(choriocarcinoma)、胎盤部トロホプラスト腫瘍(placental site trophoblastic tumor : PSTT)、類上皮性トロホプラスト腫瘍(epithelioid trophoblastic tumor : ETT)ならびに存続絨毛症(persistent trophoblastic tumor)の6つを絨毛性疾患と総称する。本邦では、国際的な分類を取り入れつつ、臨床的ならびに病理学的な2つの見地から別個に分類している。なお、存続絨毛症は臨床的分類にのみ定められる疾患である。「絨毛癌診断スコア」による存続絨毛症の臨床的侵入奇胎と臨床的絨毛癌への分類は、存続絨毛症の病理学的診断を推定する本邦独特のものであり、組織学的正診率も高いことが知られている。臨床的分類に関しては、国際的に種々の分類がなされているので対比には注意を要する。特に2002年にFIGO Oncology Committeeで承認されたFIGO 2000 systemは国際基準として重要である。その中で、化学療法や摘出手術などを必要とする疾患の総称として妊娠性絨毛性腫瘍(gestational trophoblastic neoplasia : GTN)という概念が示されており、本邦でいう侵入奇胎、絨毛癌そしてPSTTを含んでいる。GTNに胎状奇胎を加えた概念が妊娠性絨毛性疾患(gestational trophoblastic tumor : GTD)と総称される。」

生殖内分泌学分野

【用語解説なし】

正所異所同時妊娠 heterotopic pregnancy, multiple-sited pregnancy

【用語解説あり】

生化学的妊娠 biochemical pregnancy

【用語解説】「血清または尿中に β -hCGが検出され生化学的には妊娠と判定されるものの、超音波断層法などにより着床部位の確認ができない状態から月経様の出血が起こり、妊娠が自然に終結(流産)する場合をさす。生化学的妊娠は妊娠歴に加えるが、習慣流産や不育症を診断する上での根拠とはしない。」

経緯：「生化学的妊娠」と「的」を記する理由について

漢語を重ねて、上の語が下の語を修飾する場合、一般に、上に来る語には以下のような特徴がある。

1. 形容動詞の語幹である。形容動詞は下の語の間を「な」で結ぶことが出来ること(例:「完全」な+「流産」, 「不全」な+「流産」)(用例は用語集・用語解説集第3版から採りました), そして主語にできないことが特徴である(例:完全が走る×)。
2. 動作名詞など, 「する」を付けてサ変動詞になりうる名詞(例:「稽留(する)+「流産」, 「浸潤(する)」+「癌」, 「早発(する)」+「閉経」), 動作名詞以外の名詞でも「する」を付けてサ変動詞的に用いる例(例:科学する, お茶する)は増えているので, 「習慣する」が許されるのであれば, 「反復流産」と表記を揃える意味で「習慣流産」は許されるかと思う。

そして形容動詞の語幹, あるいはサ変動詞に馴染まない名詞を用いる場合は「一的」などを付けて形容動詞的に用いざるを得ないのではないか(例:「生物学」的(な)+「妊娠反応」, 「生理」的(な)+「体重減少」, 「顕微鏡」的(な)+「奇胎」)。このような観点で「生化学」「妊娠」を考えてみると, 「生化学」は形容動詞の語幹ではなく, また生化学する, という語が馴染まない以上, 「生化学的妊娠」とするのが妥当と考える。少なくとも, 「完全流産」「反復流産」等の用例に倣って「生化学妊娠」とするわけにはいかないと考える。

不育症 recurrent pregnancy loss

【用語解説】「生殖年齢の男女が妊娠を希望し, 妊娠は成立するが流産や死産を繰り返して生児が得られない状態。原因として, 抗リン脂質抗体症候群, 子宮の形態異常, 夫婦の染色体構造異常などがある。」

経緯: まず第3版で「流産や早産」とあったものを「流産や死産」に改訂しました。つぎに不育症に相当する英語ですが, 第3版用語集では「infertility, recurrent pregnancy loss」, 用語解説集で「recurrent pregnancy loss」と異なる記述がなされていました。ASRMはDefinitions of infertility and recurrent pregnancy loss: a committee opinion. Practice Committee of the American Society for Reproductive Medicine.(Fertil Steril 2013; 99: 63)において“Recurrent pregnancy loss is a disease distinct from infertility, defined by two or more failed pregnancies.”と, infertilityとrecurrent pregnancy lossを明確に区別している。infertilityに不育の意味を与える文献も散見されるが, ASRMの定義に従って, 英語としてはrecurrent pregnancy lossのみを採用することとした。流産, 死産の回数については言及を避けた。

稀少部位子宮内膜症 less common and rare site endometriosis/endometriosis into atypical lesion

【用語解説】「子宮内膜症の発生部位を, その頻度により common site, less common site, rare site の3つに分類した場合, 好発部位とされる卵巣, 子宮靱帯, 直腸腔中隔, ダグラス窩, 腹膜以外の臓器・組織に発生する子宮内膜症の総称。その発生部位としては腸管, 腔, 皮膚, 尿管, 膀胱, 鼠径部, 肺などがある。」

性分化疾患(性分化異常) disorders of sex development

【用語解説】「染色体, 性腺または解剖学的な性が先天的に非定型である状態。2006年米国小児科学会がIntersexに代わって提唱した疾患区分である。差別的な意味合いを排し, 多様性を認める「非典型的な性分化」を指す。DSDは①Turner症候群やKlinefelter症候群などの性染色体異常に伴う性分化疾患(sex chromosome DSD), ②Swyer症候群(XY純粋型性腺形成不全症)やアンドロゲン不応症候群(AIS)などの46,XY DSD, ③46,XX DSDに分類される。」

経緯: 第3版に収載されていた「インターセックス」, 「偽半陰陽」, 「半陰陽」の語を避けて, この語にまとめた。

Kaufmann療法 estrogen-progestin therapy, EPT

【用語解説】月経周期における卵巣ステロイドホルモン動態を模倣したエストロゲンおよびプロゲステンの投薬により, 消退出血を生じさせる方法。1932年にCarl Kaufmannが排卵障害の女性に月経を誘発する方法として報告したが, 現在の投与方法とは異なっていた。現在本邦では, 主として経口剤による周期的エストロゲン・プロ

ゲスチン投与法のことを Kaufmann(カウフマン)療法と称しており、月経周期の5日目より21日間エストロゲンを投与し、その後半の12日間にプロゲスチンを併用する方法などがある。本療法後約2〜7日で消退出血が認められる。本療法を数周期行った後に視床下部・下垂体・卵巢系の内分泌動態が正常化する場合があるが、現在では月経発来日の調節、過多月経や月経困難の症状緩和、エストロゲン補充などの目的で行われる。

Holmstrom 療法 progestin therapy, PT

【用語解説】子宮内膜機能層の肥厚に十分な内因性エストロゲン分泌がある無排卵の女性に対して、外因性にプロゲスチンを一定期間投薬することで消退出血を生じさせる方法。1954年に Emil G. Holmstrom が、若年女性および周閉経期女性の無排卵に伴う子宮異常出血に対する止血法として提唱した。本法の原理はゲスターゲン試験と同様である。現在本邦では、多嚢胞性卵巢症候群など、いわゆる第1度無月経の女性に消退出血を発来させることを目的とした周期的黄体ホルモン投与法を Holmstrom 療法と呼ぶことが多い。

プロゲスチン progestin

【用語解説】黄体ホルモン様生物活性をもつ物質の総称で、子宮内膜の分泌期内膜への分化、脱落膜形成、子宮筋のオキシトシンに対する感受性低下、排卵抑制、乳腺発育、体温上昇などの作用を有する。ヒトの代表的なプロゲスチンはプロゲステロン progesterone で、コレステロールを基質として黄体内茨膜細胞、胎盤、副腎皮質網状層、精巣から分泌される性ステロイドホルモンである。多くの合成黄体ホルモン製剤が卵巢機能不全、月経異常、経口避妊などのほか、子宮内膜症や子宮体癌の治療に臨床応用されている。同義語としてプロゲ(ジェ)ストーゲン progestogen, プロゲ(ジェ)スターゲン progestagen, ゲスターゲ(ジェ)ン gestagen などがある。

モザイク(コルポスコピー所見の) mosaic [M]

【用語解説】コルポスコピー異常所見の1つ。モザイク模様を示す限局性の異常病変であり、その領域は赤い境界で区画されている。軽度所見は、軽度白色上皮を背景に丸みのあるモザイク網目を認めるが、網目の大小不同性は少ない。一方、高度所見では、高度白色上皮を背景に多稜形のモザイク網目を認め、病変の進行とともに網目の乱れや大小不同性を増す。

モザイク(遺伝学上の) mosaicism

【用語解説】単一の個体または組織の中に、単一の接合子から発生した遺伝的に異なる2つ以上の細胞系列が混在する状態。モザイク個体における変異細胞の集団が胚細胞に存在する場合を生殖細胞系列モザイク germline mosaicism、しない場合を体細胞モザイク somatic mosaicism と呼ぶ。

黄体補充(療法) luteal support

【用語解説】黄体機能不全に対する治療法。一般的にはヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)投与による黄体賦活療法やプロゲスチン製剤を経口、筋注または腔剤で補充する黄体ホルモン補充療法が行われている。自然周期における本療法の有効性は示されていない。GnRH アゴニストやアンタゴニストを用いた ART 周期では本療法の有効性は数多く報告されている。

ソノヒステログラフィー sonohysterography

【用語解説】子宮内膜の厚みや性状の不整などから、子宮内膜ポリープ、粘膜下筋腫などの子宮内病変を疑う時に、子宮内に生理食塩水などを注入し超音波断層法を行うことで、子宮内腔の状態を確認する検査手技。

卵巢開孔術 ovarian drilling

【用語解説】多嚢胞性卵巢症候群に対する手術療法で、電気メスやレーザーにより卵巢表面に多数の小孔をあける術式。多くは腹腔鏡下手術として行われ、術後の妊娠率および生児獲得率はゴナドトロピン療法と同等の成績

が得られるとされている。手術の効果は永続的ではない。

牽糸性 spinnability, Spinnbarkeit (D)

【用語解説】子宮頸管粘液をシリンジなどで採取し、スライドガラスに付着させて牽引すると糸状に伸びるが、この伸びやすさを牽糸性と呼ぶ。排卵期に近づくほど長く伸びやすくなり、排卵期には10cm以上となる。粘液の物理的性状を示すと考えられており、排卵期であるのにもかかわらず牽糸性が低い場合、頸管不妊である可能性がある。

月経モリミナ menstrual molimen (molimina)

【用語解説】正常の卵巣機能により月経が発来しているにもかかわらず、尿生殖洞の發育異常による処女膜閉鎖や陰腔の横中隔等のために月経血が腔外に排出されず、月経のたびに周期性の下腹痛を訴える病態。腔留血症、子宮留血症を伴う。治療は処女膜、腔横中隔の切開術を行う。

女性医学分野

【用語解説なし】

性別違和 gender dysphoria

MTF male to female

FTM female to male

月経随伴性気胸 catamenial pneumothorax

Tension-free vaginal mesh (TVM) 法

Manchester 手術 Manchester operation

腔断端脱 vault prolapse

外陰痛 vulvodynia

【用語解説あり】

LGBT Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender

【用語解説】「レズビアン(女性に惹かれる女性)、ゲイ(男性に惹かれる男性)、バイ・セクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害)の頭文字を取った総称であり、セクシャル・マイノリティ(性的少数者)を指す。」

運動性無月経 athletic amenorrhea

【用語解説】「激しい運動、トレーニング、競技に伴う体重減少性の視床下部・下垂体不全に加え、身体的・精神的ストレスから、コルチコトロピン放出ホルモン(CRH)、エンドルフィンの過剰分泌を伴うことで無月経になった状態。その治療にはトレーニング量の調整が必要とされる。運動性無月経は、「athletic amenorrhea」の訳語として使用されている。」

女性アスリートの3主徴 Female Athlete Triad ; FAT

【用語解説】「1997年に米国スポーツ医学会(ACSM)が出した声明で述べられた、女性アスリートにしばしばみられる利用可能エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症の3つをいう。」

補完代替医療 complementary and alternative medicine ; CAM

【用語解説】「現代西洋医学領域において、科学的未検証および臨床未応用の医学・医療体系の総称。」

ロコモティブ シンドローム locomotive syndrome

【用語解説】「運動器の機能不全により要介護状態および要介護リスクが高まった状態。」

骨盤臓器脱 pelvic organ prolapse ; POP

【用語解説】「骨盤内臓器(尿道・膀胱・子宮・小腸・直腸)が陰をヘルニア門として下垂・脱出する疾患。陰部の下垂感や腹部の不快感に加えて、排尿・排便機能、性機能を障害し、高齢女性の Quality of Life(QOL), Activity of Daily Life(ADL)を著しく低下させる。子宮の脱垂程度に関し、Porges 分類(1963 年)では、第一度(軽度、子宮下垂)：子宮頸部がまだ陰内にとどまるもの、第二度(中等度、部分子宮脱)：子宮頸部が陰入口部を超えて脱出するが、子宮体部は陰内にとどまるもの、第三度(高度、完全子宮脱)：子宮体部も陰入口部を超えて脱出するもの の三段階に分類している。現在では子宮だけでなく他骨盤臓器の脱垂を含めてより総合的な評価・記載を行う。

陰上部は基靭帯・仙骨子宮靭帯(レベル1)、陰中部は骨盤筋膜腱弓への側方付着(レベル2)、陰下部は会陰と尿生殖隔膜への癒合(レベル3)によりそれぞれ支持されているが(DeLancey のレベル別支持機構説)、こうした支持組織・骨盤底筋群の脆弱化により、適切な支持力と筋収縮が失われ、骨盤内臓器の下垂・脱出とともに排尿・排便機能が障害される(インテグラル理論)。

骨盤臓器脱の治療には骨盤底筋群訓練やペッサリーリングの陰内挿入が行われる。こうした治療が無効の場合、歴史的にさまざまな手術治療が行われてきた。子宮間置術(Schauta-Wertheim 法)、円靭帯を腹壁に固定する Gilliam-Doléris 法、肛門挙筋縫縮を中心とした骨盤底整形術に子宮の腹壁固定を加え、頸部延長があれば頸部切断を加える Halban-Doléris 法、Manchester 法などがある。また、陰断端脱・小腸瘤の予防または修復手術としての陰固定術には、McCall や Shull らにより提唱された仙骨子宮靭帯陰固定術(uterosacral ligament vault suspension ; USLS)、仙棘靭帯陰固定術(sacrospinous ligament vault suspension ; SSLS)、腸骨尾骨筋陰固定術、仙骨前陰固定術(開腹による abdominal sarcocolpopexy ; ASC、腹腔鏡下に行う Laparoscopic sacrocolpopexy ; LSC、ロボット支援下に行う robotic assisted laparoscopic sacrocolpopexy ; RSC)などがある。2004 年以降、経陰的に前陰壁下または後陰壁下にポリプロピレンメッシュを留置する経陰メッシュ手術(transvaginal mesh surgery)も行われている。」

問題提起：妊娠回数のかぞえかた

1. はじめに

妊娠した回数、および分娩した回数は、産婦人科診療においてきわめて重要かつ基本的な患者情報であって、ある患者の診療情報を記載するうえで欠かすことのできないものである。したがって、診療施設間で交わされる診療情報の提供でも、妊娠の回数、分娩の回数の数値は、ほぼ必ず記載される。

このうち、妊娠した回数については、数字を使って、「○妊」、「○経妊」、「○G」のように表記される。このように表記するとき、現在妊娠していない女性については、それまでの妊娠の回数を○に表記することとなり、表記法にゆらぎは生じない。しかし、現に妊娠している女性については、その現在の妊娠を回数に算入するかしないかで表記の方法にゆらぎが生じる。例えば、過去に1度妊娠出産し、現在2回目の妊娠をしている女性の妊娠回数を表現するのに、現在の妊娠を回数に算入しない方法(A)で表記すると、「1妊」、「1経妊」、「1G」のように記載されるが、現在の妊娠を回数に算入する方法(B)で表記すると、「2妊」、「2経妊」、「2G」のように記載されることになる。そして、このどちらの方法で表現するか、国内の産婦人科施設において統一されていないのが現状のようである。

筆者は、所属した大学医局において(A)の方法での表記がなされていたことから、現在に至る30余年の間、(A)の方法での表記を何の疑問もなく使用しており、自分の周囲を見回しても(A)の方法での表記が一般的であるように思われてきた。しかしながら、(B)の方法での表記も少なからず行なわれているようであり、また、以前から気づいていたことではあるが、海外の英語論文での記載は、(B)の方法で表現されているものが多いように思われる。

この問題については、一度、次のことを考えてみる必要があるように思われる。

- ①妊娠の回数のかぞえかたについて、国内の施設での統一を図ることが必要であるか否か。
- ②統一するとした場合、(A)、(B)どちらの表記法とすべきか。

この課題は、平成28年9月10日の日本産科婦人科学会理事会に上程され、検討された結果、上記の①の点について、「妊娠の回数のかぞえかたは、国内で統一されるのが望ましい」との合意に至った。

そこで、(A)、(B)どちらの表記法のどちらを採用するのが適切か、判断するための材料とするべく、若干の考察を行った。なお、前述のように筆者は、長年(A)の方法での表記を行ってきた経緯から、(A)の方法を基盤とした考察である。

2. さまざまな表記のしかた

妊娠の回数の計数法は、上述のように現妊娠を算入しない方法(A)と、現妊娠を算入する方法(B)の2つの方法があるが、そもそも、妊娠、分娩の回数を数値をもって表現する方法には、さまざまなものがある。いくつか例を挙げると次のようなものである。

表現法の数々

○回経妊○回経産

○経妊○経産

○妊○産

○回妊娠○回出産

○回目妊娠○回目出産

第○回妊娠第○回出産

表1 2回目の妊娠の途中である女性の、妊娠回数、出産回数のさまざまな表現法.
(表の左列の○に入れる数値は何か?)

	この妊娠の途中		この妊娠の出産の後	
	Aの方法	Bの方法	Aの方法	Bの方法
○回経妊○回経産	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2
○経妊○経産	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2
○妊○産	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2
○回妊娠○回出産	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2
○回目妊娠○回目出産	—*	2, 2	2, 2 (直後のみ) [†]	2, 2 (直後のみ) [†]
第○回妊娠第○回出産	—*	2, 2	2, 2 (直後のみ) [†]	2, 2 (直後のみ) [†]
○G○P	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2
G○P○	1, 1	2, 1	2, 2	2, 2

*:「○回目妊娠」や「第○回妊娠」という表現の場合、妊娠中にはAの計数法は成立しない.

[†]:「○回目妊娠」や「第○回妊娠」という表現は、妊娠していない場合には通常は成り立たないが、出産が終了した直後ならば成立する.

○G○P

G○P○

例として、過去に1度妊娠出産し、現在2回目の妊娠をしている女性の場合に○に数値をあてはめると、表1のように表現される.

このうち、(A)の方法と(B)の方法で数値の異なるものは、この妊娠の途中における妊娠回数の数値であり、(A)の方法では「1」となり、(B)の方法では「2」となる. この違いは、どの表現法を用いても同じように出現する. 今回の考察は、この違いを解消し統一すべきか、ということに関するものである.

スライド4の表の中で(A)の方法と(B)の方法で数値の異なるものには、もうひとつ、「○回目」や「第○回」という表現を使った場合の出産回数の数値が挙げられる. 他の表現法における数値が量や総和を示すものであるのに対して、「○回目」や「第○回」という表現では、その数値が量や総和ではなく順序を示す数値であることが明白であり、他の表現法とは根本的に異なる. したがって、「○回目」や「第○回」という表現法は、今回の考察の対象ではない.

3. 英語での表記の根拠

海外で発表される英語の論文では、(B)の方法で計数されているものが多いように思われる. 英語の論文の多くは、「Gravida ○」、「Para ○」など、○に数値を入れて記載される. そこで、その計数法の根拠を探るために、ステッドマン医学辞典の英語版第28版(2006)で、GravidaとParaの語の意味を調べた.

Gravida: A pregnant woman. Gravida followed by an arabic numeral or preceded by a Latin prefix (primi-, secundi-, etc) designates the pregnant woman by number of pregnancies; e.g., gravida I, primi-gravida; a woman in her first pregnancy; gravida II, secundigravida; a woman in her second pregnancy.

Para: A woman who has given birth to one or more infants. Para followed by a roman numeral or preceded by a Latin prefix (primi-, secundi-, tertii-, quadri-, etc) designates the number of times a pregnancy has culminated in a single or multiple birth; e.g., para I, primipara, a woman who has given birth for the first time; para II, secundipara, a woman who has given birth for the second time to one or more infants.

(Stedman's Medical Dictionary 28th Ed, 2006, Lippincott Williams & Wilkins)

この記載からは、1回目の妊娠の途中である妊婦は、Gravida I、つまりG1であり、2回目の妊娠の途中である妊婦は、Gravida II、つまりG2であるということになり、Bの方法に基づく数値と一致する。

4. 日本における表記の成立についての考察

日本では(A)の方法による計数法が優勢とみられるが、海外と異なり(A)の方法が成立した背景は何であろうか。その理由を考察した。

妊娠回数さまざまな表現法のうち、「○回目」と「第○回」という明らかに順序を示す特殊な表現法を除くその他の表現法、「○回経妊」、「○経妊」、「○妊」、「○回妊娠」、「○G」、「G○」の各々に、(B)の方法に基づく数値を入れてみる。例えば、2回目の妊娠中である女性について、「2」という数値を入れてみると、「2妊」、「2回妊娠」、「2G」、「G2」という表現は比較的抵抗なく受け入れられるが、「2回経妊」、「2経妊」と表現することには、少なからぬ違和感を感じる。この感覚は、筆者が長年、(A)の方法による表記を行なってきたことに基づく慣れによると思われるが、(B)の方法による表記を行なう者にとっては、2回目の妊娠中の女性に対して「2妊」、「2回妊娠」、「2G」、「G2」と表現するのは当然であり、受け入れられるとか抵抗があるなどという表現は適切でないかもしれない。

なぜ「○回経妊」「○経妊」という表現に(B)の計数法に基づく数値をあてはめると違和感を感じるのか。「○妊」、「○回妊娠」、「○G」、「G○」という表現と、「○回経妊」、「○経妊」という表現の違いは、何か。それは、「経」という文字である。

そこで、「経」という文字について、その意味を調べた。大漢和辞典巻八(大修館書店)(1958)に第27508番目の文字として「経」があり、そこには、「たていと」、「たて」、「みち」にはじまり、全部で35の意味が挙げられているが、その21番目の意味として、「ふる、過ぎる」がある。これが、「○回経妊」、「○経妊」の場合の「経」の意味と考えられる。「ふる」とは、「へる」の古体である。ちなみに、「経」は「経」の正字であり、戦後の国語改革で当用漢字が定められた際に、当用漢字表に「経」を収載するにあたり、簡略化された字体を採用したものである。

次に、「経る」を国語辞典で調べた。日本国語大辞典11巻(小学館)(2001)によると、「経る」の見出しに次の5つの意味が記載してある。

- ①時が来てまた、去っていく。時間が過ぎていく。経過する。
- ②日月を送る。歳月を送る。時を過ごす。
- ③ある段階を通る。ある地位や段階を経験する。
- ④そこを通過して他の所へ行く。通り過ぎる。通過する。
- ⑤所定の手続をふむ。他の人の認可などを求めてその過程を通る。

なお、日本国語大辞典には、「経妊」という見出しは、ない。

これらの記述から国語学的に考察すると、「経妊」という表現をする場合、それは「妊娠を経る」ということを意味し、「妊娠を経る」ということは、「妊娠」という状態に入って、さらにその状態を通り過ぎること、すなわち、その妊娠を終えること、と解されるであろう(図1)。妊娠経過の途中である場合、その妊娠を「経妊」の回数に算入しない理由は、この点にあると思われる。また、「経」の文字を含まない表現法で、例えば「2妊」などと表現する場合に、現在の妊娠を算入するのに抵抗が少ない理由もここにあるのであろう。

さらに、南山堂医学大辞典第20版(2015)には、「経妊婦」の項に次のような記述があり、興味深い。

経妊婦とは、すでに1回以上妊娠したことのある妊婦を指す。またこの語は、現在妊娠中でなくてもすでに妊娠したことのある女性(婦人)の意にも用いられる。一方、未妊婦 nulligravida とは、まだ妊娠し



図1 経妊,「妊を経る」とは？



図2 「〇回経妊」,「G〇」, および「未妊婦」,「初妊婦」,「経妊婦」の関係

たことのない婦人をいい、1回目の妊娠が成立するまでの婦人である。初妊婦 primigravida とは、現在1回目の妊娠中の婦人を指す。

第1文および第2文を読むと、妊娠したことのある女性は、妊娠中であるなしにかかわらず「経妊婦」とあり、この記載からは、妊娠が成立した段階で「経妊」であると読み取れる。さらに、1回目の妊娠中の女性に対して「初妊婦」という語を充てていることから、妊娠が終わることによって、「妊娠を経る」ことになることとすることがうかがえる。

5. 英語での表記と日本語での表現との対比

英語で、「G〇」などと妊娠回数を表すときに、この数値は、妊娠が成立した時点で算入されるものである。それに対して、日本語「経妊」という用語を用いて表現する限り、この「経妊」の回数に算入されるのは、妊娠が終了した時点となるのである。両者の関係を図で表現すると、図2のような関係になるであろう。

6. まとめ

妊娠回数のかぞえかたの国内での統一を図る場合、(A)、(B)いずれか一方の方法に統一するとき、それぞれ次のような問題点が生じる。

(A)の方法を採用する場合、海外の表現との齟齬が生じることとなり、論文投稿などには注意を要するであろう。(B)の方法を採用する場合、海外の表現との整合性を保つことができる。しかし、上記の考察に述べたように、「経妊」など「経」を含む表現では不自然になるので、「経」を含まない表現をする必要があるかもしれない。

いずれの場合も、全国的に十分な周知のための準備が必要となろう。現状では、(A)の方法による計数法を採用の施設が多いと見受けられ、周産期の統計なども(A)の方法に準拠しているものが多いため、(B)の方法への統一を図る場合、より丁寧な準備が求められることが予測される。以上の点を考慮しつつ、慎重な検討を要する。

(東京都立墨東病院 久具宏司 記)

提言：癒着胎盤，およびその細分類の日本語用語について

癒着胎盤の総称，および3つに細分類した病態の日本語用語について，現在の日本語用語が不統一の状態であることを日産婦誌において問題提起し(平成24年6月号)，学会会員からの意見を寄せてもらってから4年が経過した。

この問題は，平成23年に日産婦理事会において問題提起したところ，理事長をはじめ複数の理事より改善が求められ，この機会に是非適切な用語への統一を図るよう期待する声が聞かれたことに端を発する。同一の用語(癒着胎盤)で広義にも狭義にも使用されているのは好ましくないとの所感も多く聞かれ，広義と狭義で同一の用語を使用することを避ける観点から，早期になんらかの解決を図ることが望ましいと考えられた。

現在，多くの産婦人科の教科書および用語集などでの取扱いは，概ね次の2つの用語体系をもって記載されている。

①全体の総称として，「癒着胎盤」

Placenta accreta：楔入胎盤(せつにゅうたいばん)

Placenta increta：嵌入胎盤(かんにゅうたいばん)

Placenta percreta：穿通胎盤(せんつうたいばん)

②全体の総称として，「(広義の)癒着胎盤」

Placenta accreta：(狭義の)癒着胎盤

Placenta increta：嵌入胎盤(かんにゅうたいばん)

Placenta percreta：穿通胎盤(せんつうたいばん)

このほかに，臨床的分類として「付着胎盤(ふちゃくたいばん)：adherent placenta」を記載している書籍がある。

今回，周産期委員会での検討を踏まえ，さらに，平成28年9月10日に開催された日本産科婦人科学会理事会での討議を経て，次の案を提案することになった。

全体の総称として「癒着胎盤」

Placenta accreta：単純癒着胎盤(たんじゅんゆちゃくたいばん)

Placenta increta：侵入胎盤(しんにゅうたいばん)

Placenta percreta：穿通胎盤(せんつうたいばん)

Adherent placenta：固着胎盤(こちゃくたいばん)

以下に，本案に立ち至った理由を，順を追って述べる。

1. 総称としての「癒着胎盤」を変更するのは、不適當、かつ理由が曖昧である。

日産婦誌平成 24 年 6 月号において提案した用語体系は、総称を「固着胎盤」へと変更するものであった。これは、総称として用いられる広義のものと accreta に対してのみ用いる狭義を区別するためには、どちらかを他の新たな語とすることが必要であり、現在の英語での総称が「Placenta accreta, increta, percreta」とやや曖昧な表現に変わっていることから、総称のほうを変更するよう提案したものである。

しかしながら、総称として「癒着胎盤」を使用することのほうが細分類としての Placenta accreta を使用するよりも断然頻度が高いことを考慮すると、総称のほうを全く新しい語に変更するのは適切でない、という声が多く聞かれた。とくに総称としての「癒着胎盤」は、福島県立大野病院事件を契機に分娩時の重症例として産婦人科医学界を超えて世間に広く浸透するに至っており、その用語を変更することは産科診療のリスク管理を継続して社会にアピールしていくうえで、不適切と考えられる。このような状況の中でなお総称の「癒着胎盤」を変更するまでの理由はなく、変更の必然性は認められない。

2. 細分類の Placenta accreta に相当する日本語用語も、「癒着胎盤」に代わるものはない。

総称の「癒着胎盤」を変更しないとすると、細分類としての「癒着胎盤」を変更する以外にないことになる。

英語の用語で 1950～1960 年代に 3 つの細分類が定着したのを受け、日本語においても 3 つの細分類に相当する用語を定める試みがなされ、1970 年代に「楔入胎盤」なる用語が細分類の Placenta accreta を表すものとして作られた。この時には、総称の「癒着胎盤」を変えないのであるならば、細分類の Placenta accreta に新しい語を充てざるを得ないとの考え方に基づいていたであろう。

しかし、この「楔入胎盤」という用語が定着しない。下の表は、細分類の Placenta accreta に対する日本語用語として「楔入胎盤」と「(狭義の)癒着胎盤」のいずれが用いられているか、各年代に刊行された教科書の数を示したものであり、日産婦誌平成 24 年 6 月号の前著の内容をまとめたものである(1960 年代には、いまだ細分類がなされていない)。この推移をみると、1970 年代に「楔入胎盤」という用語を作成し普及を図ったものの定着せず、「(狭義の)癒着胎盤」が優勢となってきていることがわかる。

すなわち、細分類の Placenta accreta に対する日本語は、やはり、「癒着胎盤」が最適であって、他の語で代用することは難しいものと考えられる。

表：細分類された Placenta accreta の日本語用語を採用した教科書の数(年代別)

見出しの用語	1960 年代	1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年以降
楔入胎盤	0	2	3	2	6
(狭義の)癒着胎盤	0	0	0	6	8
両者の併記	0	0	2	0	1

3. 「癒着胎盤」に接頭語を付けることにより区別する。

総称としての「癒着胎盤」、細分類としての Placenta accreta、どちらも「癒着胎盤」と表現せざるを得ない状況において、これら 2 つを用語をもって区別することは不可能と思える。唯一可能な方法は、「癒着胎盤」に接頭語または接尾語を付けて区別する方法である。

「～胎盤」で終止している語の後に接尾語を付けるのは適切とは思えないので、接頭語を付けることを

考えることになる。

次に、総称としての「癒着胎盤」と細分類としての Placenta accreta の両方に接頭語を付けるのか、どちらか一方に付けるのがよいかを考える。総称としての「癒着胎盤」が総称であり、細分類の Placenta accreta のほうは総称の中の1細分類であるという包含関係を考慮すると、細分類の Placenta accreta にのみ接頭語を付けるのが適切と考えられる。総称としての「癒着胎盤」のほうが、細分類の Placenta accreta よりも使用頻度が高く、かつ広く一般社会においても使用される場面が多いことから、総称としての「癒着胎盤」には接頭語を付けないのが穏当であろう。

これらの考察を経て、総称としての「癒着胎盤」と細分類の Placenta accreta を、「癒着胎盤」に接頭語を付けることにより区別する提案に至った。

4. Placenta increta, Adherent placenta の日本語について

Placenta increta に対して「嵌入胎盤」なる用語が充てられているのがその意味の面から不合理であることは前著に述べたとおりであり、「侵入胎盤」に変更することに多くの説明を要しないであろう。

胎盤が癒着しているのではないが、容易に剝離しない状態を表す Adherent placenta に対して「付着胎盤」なる日本語が充てられているが、これも用語としては不適切であり、以前より修正を求める声が多く聞かれていた。これは、「付着」という語では「付いている」ことを表すだけであり、「剝がれにくいほどに固く付いている」という性質を表現できていないからである。しかも、胎盤が「付着」としているとする表現は、正常の、あるべき状態を表しているに過ぎないとも言える。(胎盤付着部位などの用例もみられる。)

Adherent placenta に対しては、「固着胎盤」への変更が的を射ていると考える。

(東京都立墨東病院 久具宏司 記)